

小田 学生日本一

2年連続で専大勢が制す



会心のプレーで学生最高峰の大会を制した小田

日本学生ゴルフ王座決定戦11月28日、12月1日、宮崎市・トム・ワトソンゴルフコース

学生大会の最高峰で、小田祥平(文2・開志国際高)が見事優勝。全国大会で自身初の栄冠に輝いた。

小田は予選ラウンドをトップと2打差の2位で出た。決勝ラウンドに進出した。決勝ラウンドは、1対1でホールごとの打数を競うマッチプレー方式。初戦で同期の坂田一真(経営2・千葉黎明高)との大接戦を制し、「一番しんどかったが、勝てたことで波に乗れた」とその後は難なく勝ち進んだ。

迎えた決勝では、東北福祉大の古瀬幸一朗選手と対戦。今年で1、2番目くらいの会心のプレー

「今大会の結果、来年度の日本学生選手権のシード権を獲得し、オフシーズンでより一層パワーアップして、日本学生や日本アマで勝てるように頑張る」と更なる躍進を誓った。

(河上明来海・文3)

専大スポーツ

【専大スポーツ】<https://www.senshu-u.ac.jp/sports/>

No. 446

専大スポーツ 編集部 公式WEB

掲載記事を含む全文はコチラ↑

Twitter @sensuponow

Instagram sensuponow

出澤 2冠達成

インカレ王者の貫禄見せる



優勝カップを手に笑顔の出澤

全日本学生選抜卓球選手権大会11月25、26日、岡山県・きびアリーナ

インカレ(全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部)の入賞者や留学生、全国の学生連盟の推薦者が出場するシングルの選抜大会に専大から6人が出場。女子の部で出澤杏佳(文3・大成女子高)が優勝。10月のインカレに続いて全国大会で頂点に立ち、王者の貫

全日本学生選抜卓球選手権大会11月25、26日、岡山県・きびアリーナ

インカレ(全日本大学総合卓球選手権大会・個人の部)の入賞者や留学生、全国の学生連盟の推薦者が出場するシングルの選抜大会に専大から6人が出場。女子の部で出澤杏佳(文3・大成女子高)が優勝。10月のインカレに続いて全国大会で頂点に立ち、王者の貫

「インカレと澤。試合を入れていかな」とやられるという気持ちでプレーの力みにながった。予選リーグは4勝1敗の2位で決勝ト

「ナメントへ。この敗戦から「勝ちたい気持ちが強すぎた。のびのびと自分のできることをしようと思った」と意識を切り替えた。

決勝トーナメント1回戦ではインカレ決勝で相まみえた筑波大の青井さくら選手を4-1で危なげなく退けた。この1勝

で落ち着きを取り戻し、決勝も庄巻のストレート勝ちで頂点に立った。

頂点に立ったものの手放しでは喜べない。「うれいというより、もっと気を引き締めないと。これから簡単に負けられないと思った」と、今後は追われる立場になる。

次に見据えるのは1月23日から始まる全日本選手権大会。昨年はランキング入り(ベスト16)を懸けた1戦で惜しくも敗れた。「ランキング入りを目指して頑張る」と上位進出を誓った。

なお、男子では阿部悠人(文4・希望が丘高)がベスト8入りした。

(河上)

3種目で3位

女子エペ・吉田 同団体女子サーブル・岡原



3位入賞を喜ぶ女子エペチーム

全日本学生フェンシング選手権大会11月8、12日、静岡県・沼津市総合体育館

個人では、女子エペで吉田ひなた(人間科学2)が3位入賞した。

気仙沼高(同サーブルで岡原真琴(経営4・柳井学園高)、団体では女子エペと、3種目で3位に入賞した。

吉田は相手の間隙を突くプレーで順調に勝ち進んだが、準決勝で敗退した。「自分から積極的に動いたことで、逆に自分がすきを作ってしまった。もっとフットワークを良

援がなくて心細かった。今年は試合が終わった選手も残って応援してくれていたの、良い試合を見せられるようにと気持ちよく頑張れた」と述べた。

岡原は、準々決勝では山根妃七(経営4・武生商高)との同級生対決を制するなど勝ち進んだものの、準決勝で菊地心和選手(日大)に敗れた。「3大会続けて同じ相手に負けてしまい、最後までリベンジができずとても悔しい」と話し、年末の全日本選手権大会(団体戦)に向け「良い結果で終われるようにしっかりと準備していきたい」と話した。(山口由結・文3)



健闘した岡原

個人では、女子エペで吉田ひなた(人間科学2)が3位入賞した。

気仙沼高(同サーブルで岡原真琴(経営4・柳井学園高)、団体では女子エペと、3種目で3位に入賞した。

吉田は相手の間隙を突くプレーで順調に勝ち進んだが、準決勝で敗退した。「自分から積極的に動いたことで、逆に自分がすきを作ってしまった。もっとフットワークを良

援がなくて心細かった。今年は試合が終わった選手も残って応援してくれていたの、良い試合を見せられるようにと気持ちよく頑張れた」と述べた。

岡原は、準々決勝では山根妃七(経営4・武生商高)との同級生対決を制するなど勝ち進んだものの、準決勝で菊地心和選手(日大)に敗れた。「3大会続けて同じ相手に負けてしまい、最後までリベンジができずとても悔しい」と話し、年末の全日本選手権大会(団体戦)に向け「良い結果で終われるようにしっかりと準備していきたい」と話した。(山口由結・文3)



左から上村、高原、永野、向田

4人が3位

57kg級向田 65kg級上村 74kg級高原 125kg級永野

全日本大学レスリング選手権大会11月18、19日、大阪府・堺市金岡公園体育館

フリースタイルの10階級が行われた大会でレスリング部が躍進。57kg級で向田旭登(経営2・花咲徳栄高)、65kg級で上村律心(経済1・高知南高)、74kg級で高原崇陽(経済2・高山西高)、125kg級で永野颯大(経済2・八戸工大)高)がそれぞれ3位入賞した。

1年次生ながら健闘した上村は「全日本選手権(天皇杯)の出場権を得ることができてうれしい」と率直な気持ちを述べた。

4人ともに次なるステップである12月の天皇杯にエントリー。国内最大の大会に向けて気持ちをたかづらせている。(小池佳欧・文2)

14年ぶりのリーグ制覇

ボウリング・関東学生秋季リーグ



14年ぶりの優勝をもたらした3人。左から八木、大石、佐野

ボウリング部が14年ぶり10回目の優勝を果たした。

リーグ戦は3人でチームを組む、1部所属の12チームと対戦する。専大からは、八木彩夏(経営3・必由館高)、佐野世弥(ネット情報3・浦和学院高)、大石莉央(経済2・藤沢西高)が出場した。主将の佐野は、「周りの方々からの応援や、チームのメンバーに恵まれて優勝を達成することができた。とてもうれしく思う」と喜びと感謝の気持ちを述べた。また、「これからも多くの大会があるが、リーグ戦を制した勢いそのまま、良い結果を残すように頑張る」と力強く語った。(鶴本あい・法3)

2部2位で入れ替え戦へ

12/16 因縁の立正大と対戦



野中優作(経営4、中央)のトライを祝福 撮影=北原倅多(文2)

関東大学ラグビーリーグ戦2部11月17日、11月26日、専修大学ラグビーグラウンドほか

専大は6勝1敗で2位となり、1部7位の立正大との入れ替え戦(12月16日、熊谷ラグビー場)に進出した。

勝ち点を獲得すれば2部優勝が決まる関東学院大との最終戦。21-17とリードして折り返したが、痛恨の逆転負けを喫

した。つかみかかっていた1位の座をあと一歩で逃し、石倉俊二監督は「入りはよかったが、前半で2トライを取られたのが痛かった」と振り返った。

入れ替え戦は2年前に専大を降格させた立正大との因縁の対戦となる。山本凌士(経営4・報徳学園高)は「フォワードのディフェンスやセットプレーの課題を修正して、リベンジを果たしたい」と意気込んだ。(野見山拓樹・文4)